

TOPICS [トピックス]

令和5年度内定式を執り行いました

来年春入社予定の内定者4名を迎え内定式を執り行いました。自ら考えた目標を掲げて発表をおこなう姿は、はつらつとして頼もしさを感じました。

また、社長や役員から歓迎・激励の言葉を聞く姿は、松永建設グループの一員としてふさわしいものでした。

一緒に働ける来年の4月1日がくるのが待ち遠しいです!



「Song Letters」主題歌
高橋美之 最新E.P『あいのことば』が
10月26日リリース

配信URL: https://orcd.co/miyuki20221
発売元: PAMA Music 配信元: The Orchard
presented by 株式会社松永建設

【収録楽曲】

1. あいのことば
<YouTube「まつけんチャンネル」/「高橋美之の「Song Letters」」主題歌>
作詞: 神田莉緒香、作曲: 春乃みか、編曲: 奈良部匠平
2. 夢をあきらめないで
<YouTube「まつけんチャンネル」/「高橋美之の「Song Letters」」#1 エンディング楽曲>
作詞・作曲: 阿村孝子、編曲: 奈良部匠平
©1987 by COTTONFIELDS CO.,LTD.
3. あいのことば (instrumental)

ぜひ、お聴きください!

ダウンロードは
こちら



COLUMN [コラム]

IWATSUKI FESTIVAL 2022

松永社長の
男気コラム
【フェスレポート特別編】

松永建設グループ「IWATSUKI FESTIVAL 2022」を開催しました!

9月18日(日)に3年ぶりに岩槻まつりが開催されました。

コロナ感染対策で中止になる前は、毎年弊社で特設ブースを設け、社員全員で参加しておりました。今回、3年ぶりの開催で、まだ感染者が多数発生している状況での開催ということで、人形のまち岩槻まつり実行委員会の役員の方にも非常にご判断に悩まれたと思いますが、「経済をとめず、街を活性化させる」との思いから開催を決定、弊社としてもイベントにて参加し、岩槻まつりを盛り上げることにしました。

毎回野外ステージを設置し、様々なゲストをお招きし、ライブを開催しており、今回も様々なゲストの方に参加していただきました。今年は、「Song Letters」で大活躍の高橋美之さん、ベラルーシ国立バレエ団で長年ご活躍されたバレリーナの方やバイオリン、ピアノとクラシック演奏者の方など、多彩な演者の皆さんにご参加いただきました。もちろん岩槻まつりですから私も自らのバンドで出演しました!

しかしながら、当日は、大雨が混じる天気模様……。途中雷も鳴り、電源が落ちるアクシデントもあり、途中での開催中断も頭によぎりながらも、関係者のご協力でもう一度最後まで開催することが出来ました。大雨の中、沢山のお客様にもご来場頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。また、雨に濡れながらも笑顔でお客様をおもてなしてくれた社員にも心から感謝しています。

雨がまた新たなドラマを生んだお祭りになりました。来年もまた岩槻まつりを盛り上げていきたいと思っています。



Matsunaga
Head Line News

[マツナガ・ヘッドライン・ニュース]

〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号 TEL:0120-980-633 FAX:048-798-0075

MATSUNAGA 感動創造建設会社



2022年10月発行 発行元:松永ホールディングス 発行人:松永大祐
www.matsunaga.gr.jp

2022 October Vol.49

大切な
未来の希望へ

松永建設グループが取り組む未来のカたち



CONTENTS

- 【INTERVIEW】インタビュー
P4 高橋美之の「Song Letters」
- P6 TOPICS [トピックス]、松永社長の男気コラム
- 【PROPERTY】 竣工物件
P2 R1 思川右岸友沼堤防整備工事 / R1 利根川右岸常木築堤工事 / R2 荒川右岸飯田新田地区堤防補強工事

INTERVIEW [インタビュー&竣工物件]

技術力だけじゃない、土木事業部が国土交通省から表彰された理由 株式会社 松永建設



国土交通省からおくられた2つの表彰とは？

松永建設が令和2〜3年度に手掛けた土木工事について、国土交通省関東地方整備局から「安全管理優良受注者表彰」および「工事成績優秀企業認定表彰」が送られました。

「安全管理優良受注者表彰」は累計完成工事が多い事業者の中でも、「安全対策に万全を期し、無事故で工事を完遂した」事業者におくられる表彰です。一方、「工事成績優秀企業認定表彰」は過去2か年度に完成した土木工事の工事成績評定の平均点が80点以上の企業かつ、工事成績優秀認定企業としてふさわしい企業におくられるものです。

10tダンプが入れない、幅3mの現場で

今回の表彰の対象となった3つの現場のうち、最も施工延長が長かったのが、栃木県の野木町友沼地区で施工した現場です。その全長は1.4km。松永建設で請け負う一般的な築堤工事の施工延長は200m程度なので、近年でも特に大規模な工事となりました。

現場で実際の工事を監督していた久保巽社員（現場代理人）によると、安全対策として近隣住民の立ち入りを防ぐにあたって、工事延長が長いので、オレンジネットの仮囲いを設置するだけでも「敷設用の鉄パイプの据え付けなどで時間がかかった」とのことです。

「今回は堤防天端（一番高い場所）の幅が3mしかなく、そこを走るサイクリングロードを使って盛土材を運び入れたのですが、その狭さからいつも手配している10tダンプカーが使えませんでした。それも、法面（斜面）に後ろ付けすることができず、斜めに停車させることができなかったため、転落などの事故を防ぐために誘導にはかなり気を使いました」（久保）

さらに、堤防には光ケーブルも埋設されていたため、その取扱いにも苦労があったようです。久保社員（現場代理人）によ

ると、現場で試掘を行ったあと、今回工事を担当する関係者全員が、埋設箇所を実際に目で見て確認することで、重機などによる接触事故を防止したそうです。

「ダンプのサイズが小さいと工事の進行も遅くなるので、どうしても皆に焦りが出てしまうのですが、同時に安全への配慮も必要という、なかなかタフな現場でした。その中でも、どうしてもやりたかったのが地元の小学生向けの現場見学会で、多くの子供たちに喜んでもらえた。僕は人と話すのが好きなのですが、近隣住民の方が工事にとても協力的で、こういうこと（見学会）は本当やりがいしかないですね」（久保）



ダンプカーを乗り入れたサイクリングロードの道幅が狭く、「転落防止に苦心した」と話す久保巽（現場代理人）

安全を守るべきは河川利用者…とグライダー！？

一方、利根川右岸のうち埼玉県内で堤防整備を行うことになった羽生市常木地区でも、友沼地区での工事が竣工してから数か月後に作業が始まりました。

この現場は羽生スカイスポーツ公園に隣接していることや、堤防天端がサイクリング道路になっていることから、多くの方が利用されている場所でした。それに加えて、安全対策の上で大きなポイントになったのが、河川敷にある羽生滑空場です。この滑空場は近くに拠点を持つ利用者などのグライダーが離着陸しており、機体を移動させる際には、堤防天端から河川敷へと続く坂路を利用していたのです。

R1 思川右岸友沼堤防整備工事

（発注者：国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所 様）

DATA
□ 工事場所：栃木県下都賀郡野木町友沼地先
□ 工事内容：堤防拡幅



優れた成績を取った
工事に贈られる2つの
表彰▲▶



現場を監督した伊丹健一主任（現場代理人）によると、このグライダーが工事期間中も安全に通行できるように、グライダークラブや羽生市、国土交通省などは事前に何度も打合せを行ったそうです。

「通常の手順で工事を進めると坂路が使えなくなってしまうので、先に新しい坂路を作ってから、前あったものを壊すなど、どうやってグライダーの動線を安全に確保するか。それを、関係各所にご納得いただく形で提案するためには、かなり苦心しましたね。近くに公園があるので、近隣住民の方が誤って現場に入っごないように、注意喚起の看板や仮囲いなどの対策は、かなり厳重に行いました」



土木事業部 土木グループ主任 伊丹健一（現場代理人）

INTERVIEW [インタビュー&竣工物件]



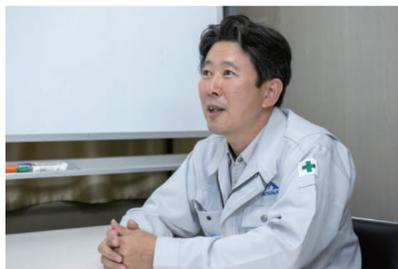
R1 利根川右岸常木築堤工事

（発注者：国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所 様）

DATA
□ 工事場所：埼玉県羽生市常木地先
□ 工事内容：築堤工事

なお、利根川と思川の2つの現場で主に関係各所との交渉を行った田中吉朗部長代理（監理技術者）によると、近年の松永建設が手掛けた堤防整備では、ICTが積極的に活用されているようです。週休二日制も導入しており、これらが「工事成績評定の高評価につながったのでは」とのことでした。

「盛土工事では事前にレーザースキャナーで堤防の現況を測定し、3次元設計データを作成し、それを元に必要な土の量を割り出しています。さらに、3次元設計データをブルドーザーやバックホウにインプットすることで、土をならすためのバケットなどが図面の斜角に沿うように動くようになります。これにより作業の目安になる丁張設置作業を行う必要がなくなり、大型重機が動いている場所への人の立ち入りが最小限となることで、事故のリスクを下げることができます。盛土が終わった後で、ブルドーザーが締め固めた回数も重機オペレーターの運転席に設置されたモニターに色分けして表示されるので、品質管理の向上にも役立っていますね」（田中）



土木事業部 部長代理 田中吉朗（監理技術者）

工事も車の往来も止めない—そのためにやるべきこと

3つの現場のうち、一番最後に着工したのが埼玉県川越市の飯田新田にある荒川右岸の堤防補強工事です。この工事では前に行った堤防整備とは違い、川裏の法尻—河川敷とは反対側の斜面の一番下に水路を整備。これにより堤防に浸透した水を排出させ、堤防を安定させるというものでした。

現場を監督した大栗和大係長（現場代理人）によると、この堤防に面した車道で「いかに安全を確保するか」が、

R2 荒川右岸飯田新田地区堤防補強工事

（発注者：国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所 様）

DATA
□ 工事場所：埼玉県さいたま市西区飯田新田地先
□ 工事内容：堤脚水路の施工



今回の工事の一番のポイントだったといいます。というのも、工事期間中は800メートルある施工延長のうち、500メートルは対面通行ができなくなるため、ガードマンを24時間配備するなどして、通行する車や歩行者、自転車の安全を確保する必要がありました。

「近隣住民の方になるべく迷惑をかけず、最大限の安全を確保するために、関係機関とは道路の通行規制についての協議を繰り返し行いました。荒川の洪水期間中に終わらせなければいけない工種もあったため、工程の管理にはかなり気を配りましたね」（大栗）



土木事業部 土木グループ 係長 大栗和大（現場代理人／右）と、鹿山祐治係長（監理技術者／左）

その、工程の洗い出しのために行った事前調査でも、また新たな問題が出てきます。河川敷にはゴルフ場があり、その利用客がクラブハウスから堤防を渡って行き来していたのです。スパイクを履き、大きなゴルフバックを抱えた人たちの安全を確保するために、仮設した階段は幅を従来の倍にして、床にはゴム製のマットを敷くことになりました。

「事前調査とそれを受けての施工検討会では、KY活動（危険予知活動）に必要な要素を洗い出し、その対策を模索していきます。もちろん現場の気づきから生まれる意見もあるので、それをどう安全対策に生かすかを、それぞれのケースに合わせて考える必要がありました」（鹿山）

こうして、一つ一つの取り組みが実を結び、3つの現場を無事故無災害で竣工することができました。その現場を任された社員の一人一人が大切にしていたのが安全対策……という大前提を生むに至った“考え方”です。「どうすれば近隣の人たちを守り、喜んでもらえるか」、「どうすれば発注者が安心して仕事を任せられるか」。

彼らの考え方と熱意が、現場の品質と安全安心の土台となっています。



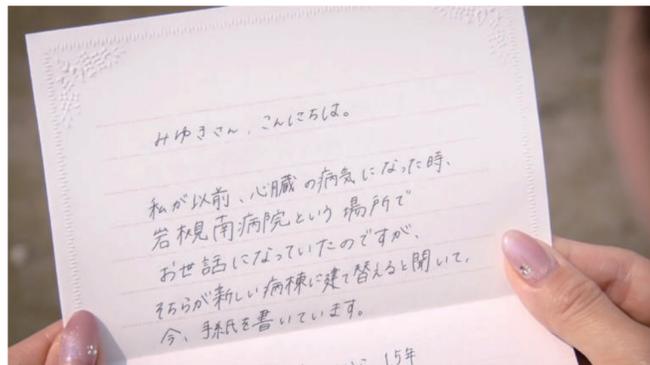
高橋美之の Song Letters

1st
Letters 岩槻南病院

YouTube再生回数
12,000回突破しました!

YouTubeで配信している「まつけんチャンネル」の大型企画として、新たにスタートした「Song Letters」。チャンネルに届いた手紙を元に、歌手の高橋美之さんが自転車で愛を届けに行きます……。第一弾として9月1日に公開された動画では、かつて入院していた患者からのメッセージを受け取って、地域医療に貢献している岩槻南病院を高橋さんが訪ねました。

昭和52年に人工透析のための施設として開設。循環器専門医が常勤しており、心疾患の早期発見と治療が可能な設備を整えている他、心臓リハビリテーションのプログラムも提供しています。2018年から敷地内で建設していた新棟が、2022年8月に完成。待合室や透析室などが新設され、多くの地域住民の方に利用されています。



15年前に心臓病で入院していたという患者さんから届いた手紙。そこには、お世話になった丸山先生や看護師さんへの感謝の気持ちがこめられていました。

新しくなった岩槻南病院を訪ねたら そこは「みんなが家族になれる」場所でした



かつて心臓病で入院していたという方から手紙を受け取り、岩槻南病院を訪ねることになった高橋さん。さっそく自転車を走らせると、手紙にもあったように敷地内には最近建てられたばかりの、真新しい病棟がありました。

その患者さんもお世話になった病院長の丸山泰幸さんによると、新たな病棟では待合室を広く設けており、「過ごしやすくなった」と多くの患者さんから好評なのだとか。

もともと専門にしていた人工透析用の病室も広く、キレイで、心が落ち着くような空間になっていました。

その後、高橋さんは心臓リハビリテーション室で、患者さん向けのプログラムを体験。ここを利用している方の中には、心疾患で心臓が止まったこともある人もいますが、「旅行に行きたい」「山に登りたい」など、かつての生活を取り戻すために頑張っているそうです。

長年この病院に勤めているという看護師さんによると、丸山院長は患者だけでなく、病院のスタッフからも「人が良すぎる」と言われるほどに愛されていて、ここは「みんなが家族になれる場所」なのだとか。最後は今まさに病院に通っているという患者さんのご夫婦から、かつては病弱だった夫が「先生のおかげで長生きしています」と心温まるエピソードを聞いて、思わず涙がこぼれそうになった高橋さんでした。

岩槻南病院が長年大切にしてきた「心のかよあう病院」という理念。それは、新しくなった病棟でも変わらずに受け継がれているようです。



病院長の丸山泰幸先生。循環器内科のカテーテル治療を長年行っており、国内でも有数のオペ数を手掛けています



「以前に丸山先生にお世話になった」という患者さん夫婦の心温まる話に、高橋さんの目に涙が…

Song Letters #2 「パパのお仕事編」は11月に公開!

今回のSong Letters「パパのお仕事編」は11月に公開予定。夏休みに「両親の仕事を探る」という自由研究をすることになったハルキ君(10歳)から手紙を受け取って、高橋さんは一催にお父さんの働いている会社に行くことに。「街を守っている仕事なんだよ」とパパは言っていたそうですが、果たしてどんな心温まるエピソードが2人待っているのでしょうか?

高橋美之の
Song Letters #1
～明日への勇気をありがとう～
へのアクセスはこちら

高橋美之の 岩槻南病院 NAVI



ここが「病院というよりホテルみたい」と患者さんからも好評だった待合室です。間接照明を使った温かみのある雰囲気がいいですね。以前よりもスペースが広くなっていて、この日も多くの患者さんが来ていましたが、皆さんゆったりと座って診察を待っていました。



新しくなった透析室も間接照明が使われていて、心が安らげる空間になっていました。解放感があるので長い透析の時間もリラックスして過ごせそうです。



心臓リハビリテーション室では平均年齢70代の患者さんがプログラムを受けているそうですが、トレーニング器具がすごく本格的でびっくりしました!

INTERVIEW [インタビュー]

高橋美之 Miyuki Takahashi

現在は「Song Letters」の第2話を収録している高橋さんに、映像の中では語られなかった岩槻南病院の魅力をインタビュー。撮影の舞台裏のごほれ話についても、色々と話を聞いてきました!

ハードなリハビリ体験に足がガクブル! ご夫妻の話に涙した理由とは?

— まずは今回取材で訪れた岩槻南病院について、どんな病院だったか印象を教えてください。

高橋:とにかく広くて、本当に病院なのかな?と思うぐらいキレイでしたね。丸山院長によると職員の動線にもこだわっていて、患者さんと行き会わないように配慮しているのだとか。回廊型になっているので、患者さんを診察室の周りを回るように案内することで、迷わずに移動できるようにもなっているそうですよ。

— 心臓リハビリテーション室では、かなり本格的なトレーニングを受けていましたね。

高橋:あれは演技じゃなくて、本当に大変でした。70代ぐらいの方がトレーニングされていたので、もっと軽い運動ぐらいのイメージだったんですけど、終わった後は足が震えてしまって、実はそれでNGになってしまったシーンもあったんです(笑)。

— 再発防止にもなるということで、皆さん本当に一生懸命にトレーニングされていましたね。リハビリ期間後も運動の提案などのケアを病院から受けていて、岩槻やまぶきまつりではTRFのサムを呼んで、ステージで「イージー・ドゥ・ダンササイズ」というエクササイズをレクチャーされたそうですよ。

— 今も通院されているというご夫妻へのインタビューでは、目が潤んでいるように見えたのですが?

番組プロデューサーに聞いた! 「Song Letters」が生まれたきっかけと撮影の狙いとは?

Q. 「Song Letters」が生まれた経緯を教えてください

松永建設さんの創立60周年に向けて、「まつけんチャンネル」で「何かメッセージを発信できないか?と、松永社長に相談されたのがきっかけでした。松永建設さんのこれまで培ってきた歴史を知る中で、「感動創造」というコンセプトを貫いて、お客様に寄り添うものづくりをしている姿を、何らかの形で残したい、もっと広めたいな。その中で思っていたのが、建物が完成した後の施主さんたちの思い、叶えたいことをドキュメントすること。そして、施主さんたちが奮闘している姿を、歌の力を借りて応援するという企画でした。

松永建設さんのものづくりにも、人の心に残るような歌にも、誰かの人生を変える力があります。その視点で、今回は歌い手でもある高橋美之さんにレポートしてもらいました。彼女の声質は素直に心に入ってくるし、普段からピュアで明るいキャラクターをしていますから、今回の企画にはピッタリだと思います。レポーターとしての役割を果たしてもらおうというより、自然体の美之さんがカメラの前に立つことで、取材に訪れた岩槻南病院さんなどのありのままの姿が見えてくるのではないのでしょうか。



「ありのままの美之ちゃんを撮る」というSプロデューサーの狙いが、この先どんなストーリーを生んでいくのか…

ながらも天候に恵まれたロケでしたね。その後で流れるエンディングテーマは、どんな思いで歌われましたか?

高橋:岡村孝子さんの「夢をあきらめないで」をカバーさせていただいたのですが、患者さんに寄り添えるような歌になればと思います。病院でお世話になった丸山院長やスタッフの方にも、何かの力になっていたら嬉しいですな。

オリジナル曲「あいのことば」で 心温まる物語をそのまま歌に

— オープニング曲「あいのことば」は、「Song Letters」のために録り下ろしたと聞いています。どんなメッセージが込められた曲なのでしょう?

高橋:動画のコンセプトとして、「手紙に書かれている場所に、自転車で乗って愛を届けに行く」というストーリーが決まっていたので、そのイメージをそのまま歌にした感じですね。レコーディングは岩槻南病院でのロケの後にいったので、オープニングとして撮影した「河川敷で自転車をこいでいる」シーンが頭にあって、そこで流れているサウンドやリズム感を大切にしながら、「Song Letters」という物語の根底にある温かさを、少しでも伝えていきたいという思いがありました。歌詞の中では、「ヒュルリラ」というフレーズが、優しく爽やかな感じがしてお気に入りです。

— ……ただ、台本には「穏やかな風が吹く河川敷」とありましたが、梅雨の合間でのロケだったので天気が大荒れで、当日は自転車をこぐのも大変なぐらいでした。岩槻南病院で撮影した日には途中で雨が降りだして、「この後のシーンをどう撮ろうか?って、みんな慌てていたんですよ(笑)。

— それでも、病院では夕焼けのシーンも無事に撮影できたわけで、何だかんだ言い

あいのことば 作曲:春乃みかく 作詞:神田莉緒香

ガーベラのシールが 二枚咲いた封筒
あなたからのレター 思い出も咲いていく

水色ラムネ 違い夏雲 胸に抱く 未来の予想図
真っ直ぐ見つめてた

ヒュルリラ 「お元気ですか?」それは愛の言葉
今日のあなたへメッセージ そっと届けましょう
(2番に続く)



PROFILE (プロフィール)
「リトル・レンズ」としてODデビューし、シングル「colorful reality」(07年)でオ리콘チャート1位を獲得。08年以降はソロ活動を行っており、21年に「BLOOM」をiTunesで配信。

Q. 岩槻南病院のロケでは どんなことが印象に残っていますか?

印象に残っているのは、ロケハンでお会いした丸山院長の地域医療にける熱意ですね。先代の頃から岩槻で患者さんへの治療を続けてきて、それを受け継ぎながら、さらに良い医療を提供していくんだという使命感が感じられました。本番の撮影でもあの松永社長が合いの手を入れられないぐらいに、熱い思いを語っていただきました(笑)。当時は新病棟が未完成で、診察が始まる前にお邪魔したのですが、すでに受付には長い列ができていて、「この院長はどれだけ患者さんに信頼されているのか」と驚かされましたね。

それと、映像には出ていないのですが、今回のロケが一番お世話になったのが病院の事務局長さんです。事前にみなさんと細かく打合せをしていたのですが、院長やスタッフの方々、そして患者さんの撮影時間をすべて調整していただき、キャストまでしていただきました。普段は忙しくて電話にもなかなか出られないような方なのですが、そういう人に全面協力していただけたのは凄いです。松永建設さんと岩槻南病院さんの関係性を垣間見ることができましたね。